## 侵入害虫クビアカツヤカミキリに注意!!

近年、外国から侵入したクビアカツヤカミキリの発生が日本各地で問題となっています。 本種は幼虫が樹体を食害することで、バラ科樹木(サクラ・ウメ・スモモ・モモ)を中心 に多くの果樹や樹木に大きな被害を与えます。

和歌山県では2017年7月に伊都郡かつらぎ町でオス成虫1頭が発見された後、2019年11月に同地域で被害が確認され、2020年5月に岩出市でも確認されました。2020年5月時点では、8園地26樹のモモおよびスモモでフラス(幼虫の糞と木くずの混合物)が確認されおり、被害が拡大しています。現在のところ、日高・西牟婁地方への侵入は確認されていませんが、定期的な園内の見回り等の注意を強化することが必要です。



① クビアカツヤカミキリ成虫 (体長3~4cm程度) 6~8月頃に発生 (徳島県農林総合技術支援センター提供)



② **食入孔からのフラス排出(モモ)** (2019年11月伊都郡かつらぎ町で撮影)



③ 幼虫により排出されたフラス(虫糞) 樹の株元に積もる



④ フラスの形態(拡大図)うどん状(ひき肉状に細長く連なっている)

ウメやサクラなどで本種の成虫もしくは特徴である大量のフラス(写真③・④)が 排出されている樹木を見かけた場合、成虫は捕殺してください。

## (連絡先)

田辺市の通報体制をご覧ください。